

京城日報

刊夕日四

●政府の獨立取消要求

中央府は二日獨立取消要求書を打電要求せり

●廣東省の治亂と打電

龍濟光の轉任を促す

●唐紹儀の就任拒絶

唐紹儀は外務省に就任し上海特電

●聯合軍の前途有望

英佛軍ベロンスに捷つ

●英軍著しく前進

フリックルを占領す

●佛軍ソムの南北に勝つ

二日發表の公報に曰く

●英佛軍益進出す

倫敦來電に曰く

●露軍各方面に有利

コノア地方に於て

●改造内閣の前途

再び南北の對立

●元老首相を召す

大隈は十日頃山縣大山松

●水害調査

被害程度を調査

●忠清南道

忠清南道の水害

●全羅北道

全羅北道の水害

●井出部長出張

井出部長の出張

●古海部長出張

古海部長の出張

●福田中將入京

福田中將の入京

●總督京都著

總督の京都著

●山田中將入京

山田中將の入京

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

●大田より

大田からの電報

●山田より

山田からの電報

浪桃川如燕口濱
上義三郎速記

A black and white illustration depicting a scene from a story. A man with a long beard, wearing a patterned robe and wide trousers, stands on a rocky path. He is looking down at two people lying on the ground. One person is lying on their back, and the other is lying on their side. The background shows a rugged landscape with dark, stylized trees and rocks. The overall style is reminiscent of traditional Chinese woodblock prints.

れは其方の一命はあるまい、是が敵なら何といたす 典「へ、友、其が油斷だ、油斷が有るやうでは劍術は真正に上達はせん、今日は許す、以て來氣を附けなければならん 典「恐れ入りました」とお辭儀をして居る典藤の頭をボカリー「アツ」友「其が油斷にお辭儀をするからといつて、能く氣を配つてやれ、大白痴め」是は大變だ、櫓を援て居る所へ敵が来るやうでは、中々ウツカしに居られぬ」と夫からといふのは萬事氣を注いで居る、七八日經つて 友「典藤、モウ正午だ、典、左様で、日差、陰子では丁度正午になりますやうか 友「爐の下を教附ては何うだ 典「投りました」と土間へ下り立ちまして 典「土間に築いてありますから、其、病打込んで来たらばと思つて居ります

此の様子を見て「刀齋先生、友ハ、
ア氣が注いたな、氣附いた處を一
ツ毆つてやらう」と怒と足音をさせ
て後方へ廻つて來た。來たなと典膳
察へて居ると、窓の條四半聲の一喝
して打下ろした袋箱一足竝へ飛下
りました典膳。ビシビシ吹付て受け
た典「如何てひざいます先生、友」是は
どうも感心だ、此間中とは大分其の
様子が違ふ油斷なく要心して居るの
は感心だ。此位のもので、三年経
てば三ツになり、誰でも三年経て
ば三ツになり、友ウム典「此間は手
易く打れましたが今日は手易く打な
れませんか、友、其の考へは難い、心す
れば又別段、典有難う存じます」と

鑰物たる印巻をマダネツト看

三浦天龍堂眼鏡部

東京本町三丁目COO眼鏡部

奥路^{おくぢ}喜んでお辭儀をして居る所を頭^{あたま}をボカリ^{ボカリ}と典^典へエ二つ 友^友 最新^{さいしん}は受けるが二度目は受けないといふ極^{きよく}かね 典^典極^{きよく}もなにもないので 友^友友^友景だから宜しいが、敵^{てき}なないので 友^友不埒^{ふぢ}な奴だ、今晚^{こんぱ}から寝ればといつて 目を開いて寝る典^典少々^{少々}も待た下さい 大變^{だいへん}面倒^{めんどろ}になつて來ましたな、目を開いて寝ますかな 友^友如何にも心眼^{しんがん}を愛まして寝たる典^典へエ一典^典鷹^{たか}つた、サア大變^{だいへん}目を開いて寝るといふ、勿論^{もちろん}此の二ツ刻^{ふたとき}に光つて鼻^{はな}の脇^{わき}にあるのは凡眼^{ぼんがん}といつて物が映るのでございす、那^{その}の按摩^{あんま}は威^いが宜いといふ事を申しますが心眼^{しんがん}が明らかなので、假令^{たとへ}今目が潰^{つぶ}れて居ても、此處^{こゝ}に川^{がは}があつて此處^{こゝ}が鐵管^{てつぱん}の埋^{うめ}て道^{みち}が惡いなどといふ事を百人は能く知つて居ります、枳^し與^よ脂^し油^{あぶら}斷^{こと}をして居ることは友^友景先生^{けいせい}に打たれるので、打^うかれないやうにしたいので自然^{しぜん}身體^{しんたい}に透^{とお}が失^うなりました

入院隨意 (診察夜九時迄)

泌尿器病
腎臟病
膀胱病
淋病
梅毒
痔瘡
皮膚病

門 專

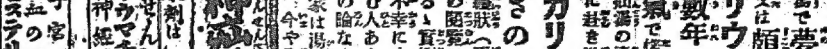
目丁二町永
院醫部安
番九一四話

七月六日九星
舊六月七日甲辰
本五五寅八陽赤日

彼かれ是こゝ迷まよと無なく

最も効く良藥神痛湯
 を試すに烈しき
 神經痛が儼然神
 痛で夢の如く治り
 又は頗る難治の
 リウマチスや
 數年痼疾の疝
 氣で悩み方々が神
 痛湯の試服で漸次快
 ちに基き遂にはスツ
 カリ快癒し嬉
 さいの餘り懇々
 書紙に現在保存す一般
 の患者に供すを要ら
 る。實例も数からす
 不幸にも是等の病に罹
 り人あらば輕症と重症
 の間、即刻試す神痛
 湯。各地方の良藥店に上
 今や全國各藥店に有

本劑は
 せんき
 リウマチス
 神痛病
 子客
 血の道
 ヒステリー
 胃腸下
 肝臓
 腎臓
 婦科
 小兒科

[illegible]

金で買へる健康

胃が強壯であれば人間の總ての病氣の百分の九十を豫防する事が出来るとは一般醫學者の定説であつて博士ポアース氏は胃病は萬病の本なりと言れたのは當然である。

梅雨の頃より、夏にかけては、身體の筋肉が弛んで、胃が弱り、身體が倦怠なり食欲が進まず、或は食傷、水あたり、暑氣あたり、甚たしきは赤痢、コレラ等の吐瀉病の多いのは、概して胃に故障の多い證據である。

胃病

の身體の機關の病氣に罹るを防ぐにも第一胃を丈夫にして身體の營養を盛んにするこゝが必要であるを併し若しも

くすり をらび かた あやま

▲**薬の撰擇を誤り**

新藥

て一時の胸すかし薬を用ふれば必ず失敗する。軍醫の合議製藥、胃活は實に健胃劑の霸王であつて、斯道の大家が「現代の世界に知られたる藥品中其比を見ず」と評せられた位であるから、胃弱家は必ず此胃活を持藥せられよ。

◎胃活錠は携帯に便利で、飲に湯水を要せず、
 (一)薬は必ず思い立たる時、買ひ玉へ

● 胸さきつかへ胸悪く
● 胸さきへさしこみ
● 食進まず又進みすぎ
● くさいゲツプいで
● 飲食すれば痛を覺ゆ
● 逆上つよく眩暈し
● 腹に塊ある様に覺ゆし

胸腹の痛み
生睡いで
通じあしく
生水はき
時々腹下り
むねやけ
身體だるく

何もなく腹に力なく
氣ふさぎ記憶あし
少しの事に疲れ寝
事を好む人
右の兆候ある人は
く胃活又は胃活錠
用て病根を治し玉へ

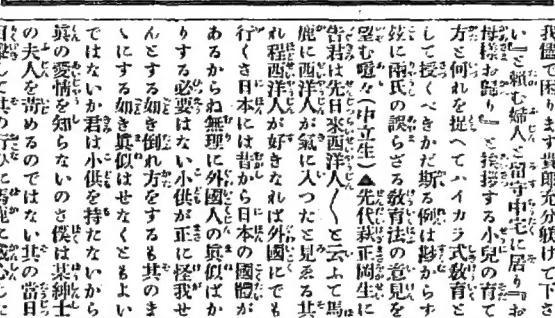
意
 (三)藥は成べく高きものを買ひ玉
 (三)藥は病の輕き間に買ひ玉
 定價
 胃活錠 一圓、五十錢、二十錢
 胃 活 一圓、六十錢、四十錢
 二十五錢、十錢
 本 鋪 山田安民藥
 東京日本橋本銀町三丁目(電話本局千九十七番)
 大阪南久寶寺町堺筋東(電話南二千三百八番)
 發賣元 山田安民藥
 請賣所 日本國內は勿論海外要所各藥店にあ



[illegible]

渡邊默禪

用ゆるほどのとはなかつた。千樽
子と大野は直と勝手によつて、先
達のほかにに假の席をとつた。
「爺や、お前の娘さんかね。」
千樽は火に手を照しながら、娘
殿に聞いた。
「はい、これが二重桜のお花でじ
やんす。お花にけえ出ら。」



忍びざる方法をさへ襲めたる人もた
然れど氏の生家は隆盛で氏は又醫道
の何ものたるを解して居られる舊時
代の迷信的療法を空想みだせず新
醫學の光明が旭の原を照す如き現
代に於て必ずや進歩せる衆説の示す
所を究り得べしと一心に氏の眞義専
門醫と協力し一心不亂に研究せし
れあらゆる實驗を試みられたのであ
る結局氏の病體を瘳て幾百箇同病
者の爲め肺病療法の範範に供した
のであつた然るに最後は氏の熱心
の明して得た精核を問屋に減減し
しむる確信ある奇藥を服用するに及
んで空しく卓効が不思議な程々々
現はれ總ての病苦も毎日に減じ約三
箇月程に全治の狀態に達して今日
では體量十八匁ある人々に養はる
程強壯で愉快幸福に活動して居れる

父
 法者のみか
 者の意見に對し以てハ
 上の兩氏を以てハ
 イカラ式否歐米の教育法を究められしとは疑はざるを得ず如何に婦人がハイカラ式だとして同情に惚けらるゝは誠に笑ひに堪へざるなり（小兒の獨立心之養成を要む自活力の減ずること）違ふも無き教育なり之れを以て殖民地の教育否文明の指導者云はんや唯々矯矯なる哉自分の虛榮を元さんには人々の生血をも吸へよの教育法已に誤り彼を不可模と云や其處で件れ出す迄には十二分の教育の方法あらん若し本町通りにてさあらんには實に刻下の教育資料とならん若輩は兩氏に問ふ「即ち泣きつゝある小兒を家内へ連れ込み此の兒は

[illegible]

本組愛読者に紹介
幾百萬同病者の爲め
自己病體を捨てて
肺病の
式金二是供す

京日案内

普通 (一) 通車金三十錢 (無引)
(二) 一圓券金六十錢 (無引)
(三) 一圓券金六十錢 (無引)
(四) 一圓券金六十錢 (無引)
(五) 一圓券金六十錢 (無引)
(六) 一圓券金六十錢 (無引)
(七) 一圓券金六十錢 (無引)
(八) 一圓券金六十錢 (無引)
(九) 一圓券金六十錢 (無引)
(十) 一圓券金六十錢 (無引)

番外 (一) 一圓券金六十錢 (無引)
(二) 一圓券金六十錢 (無引)
(三) 一圓券金六十錢 (無引)
(四) 一圓券金六十錢 (無引)
(五) 一圓券金六十錢 (無引)
(六) 一圓券金六十錢 (無引)
(七) 一圓券金六十錢 (無引)
(八) 一圓券金六十錢 (無引)
(九) 一圓券金六十錢 (無引)
(十) 一圓券金六十錢 (無引)

中込後中込機中止の時は料金返戻せず

記者及外交員月給採用
○ 希望者 633
○ 願書携帶本人來談
○ 常備圖書普及會支店
○ 希望の多少に
○ 依り給料相落支給する
○ 経験の多しに
○ 得着希望條件中用年
○ 開城の印刷所
○ 要職に充てられ
○ 保望者本人館主
○ 本館に於て市内
○ 金庫 書籍とババカリ
○ 立料 616
○ 不町二 電二五二
○ 八行希望者は
○ 府内本人來談
○ 本館に於て市内
○ 自來水通
○ 市建吏會社員向家賃格
○ 電話二四三六
○ 井村 616
○ 京女 生徒募集
○ 京城治町二丁目
○ 卒業後就
○ 概給外す
○ 635
○ 京城簿記專修館

本院

電話 京都支那領事館前
電話 龍山鶴鳴温泉
電話 龍山温泉

時計學

持牌金三
振替金三
給年金類
保利一步
京商及永
商民永樂
店新製
本店新製

植村支店

江州庄本店

柔術道場

明治町

一切の治癒御依頼に應ず

本分

電話 京都支那領事館前
電話 龍山鶴鳴温泉
電話 龍山温泉

時計學

持牌金三
振替金三
給年金類
保利一步
京商及永
商民永樂
店新製
本店新製

植村支店

江州庄本店

柔術道場

明治町

一切の治癒御依頼に應ず

本分

電話 京都支那領事館前
電話 龍山鶴鳴温泉
電話 龍山温泉

時計學

持牌金三
振替金三
給年金類
保利一步
京商及永
商民永樂
店新製
本店新製

植村支店

江州庄本店

柔術道場

明治町

一切の治癒御依頼に應ず

[illegible]

花柳病專門科

梅毒 淋病 濕尿 生殖器病
瘰癧 疳疔 門疳 皮膚病
六六六 注射 其他手術 每日
診察 無料 入院 隨時

京城南大門通慶工廠行裏

司生堂醫院

新寢堂器機にて活動寫眞の興行が
 輕便に素人にも出来る他に比類なき
 金儲機（其の利益は限りなく大なり）
 交配草紙（此の草紙にあり郵送一錢送れ）
 東京一六八八大澤商會

男も女も見落

豫防藥丸
本藥は昔から神奈川縣藤澤市に於て生薬を以て調製するものにて花柳病の傳染を防ぐに最も有効な藥也其用法は豫防し得るに至らざる者には服用せざる便重寶に察すべし獨忒の長所なり

●特別ルデーサツク

●變形子官サツク

右サツク類は精製せる完全確かなるものゝ如き粗製劣品中には全く疵損を呈す價銀小賣共廉價にして一以て御注文に應ず多試みに拘らず只京城南大門口停車場通

ドラッグ商會 日本本部
電話二五六七番 振替東京城四六七番

男の生

生殖發育不完全で包莖とか陰萎とか、
快感減少、精神衰弱な時は漸く自
原土療法を併用し、時には漸く力
博士無代密送す。直接明証する所
明高群爲代密送す。直接明証する所
眞に低價有る也よ。電話神田三二三二番五階

品質純良


大日本優等清酒

白鶴

東京日本橋區本町一丁目
三井物産株式會社

發售處

諸君
試用
洋藥
賣藥
即問
處
人
或
里
總切叮嚀
地方
衛生無害


資本金 五百
 京城市町壹
 株式會社
百三十
 銀行一般の業務精々御座
 爲換取組先内地各方面

汽船	門司	元山	立神丸	立神丸	小倉丸	山城丸
釜山	神戶、大坂行	清津、浦鹽行	神戶、大坂行	神戶、大坂行	神戶、大坂行	浦鹽行
出帆廣告	日後五時出帆	日後十時出帆	日後十時出帆	日後十時出帆	日後五時出帆	

<p>小倉丸</p> <p>元山、西湖、新潟、城津、清波行</p> <p>日午後十時出帆</p>	<p>第三零三號丸</p> <p>門司、第參平丸、大阪行</p> <p>日午後六時出帆</p>	<p>天眞丸</p> <p>每月一日廿六日十四午後十時出帆</p> <p>本船能取西大池回漕部</p>	<p>共同汽船出帆</p>	<p>大連行</p> <p>○要果、大連行</p>	<p>第七月</p> <p>日午後二時入 日出</p>	<p>浦安丸</p> <p>大崎、飯沼、主計、下宿、常期、船務、運取、供仕、船 同和、類、行、爲、行、定、定期、船務、運取、供仕、船 同和、類、行、爲、行、定、定期、船務、運取、供仕、船</p> <p>元山出帆</p> <p>日午後九時出</p>	<p>第二號丸</p> <p>西洲、津岸、各港を經て雄基行</p> <p>日午前八時出</p>	<p>(元山出帆)</p> <p>元山出帆</p>	<p>元液國共同汽船株式會社</p> <p>仁川代理店 山下、向漕部</p>
---	--	--	----------------------	----------------------------------	--	--	--	----------------------------------	---

元山代理店 田口回漕部
 京成飯店 河村進送店
 殖器病
 潮道精夢精効不交接不快、
 強はれ豫想外の効に達しく知
 能にて懇切に説明す
 眞空療法研究所
 攝津瀧御影町
 嘉納合名會社
 京坂本町三丁目廿番地
 前田酒店
 電話一三三七番

迅速確實 在市內配達及
 通信販賣致居候
 兼換了了自郵便局
 山岸天祐堂 藥品部
 電話 二〇六
 機械部
 振替貯金
 各
 各

萬圓
安田善三郎
銀行支店
御取扱申候
御取
下目
東京
支店
電話四八八番
電報掛金京城一三番
並並朝鮮樞要の地に有之候

日本郵船出帆	大連・太沽・牛莊行	三河丸	相模丸	高砂丸
	七月十五日	七月十五日	七月十五日	七月十五日
	正午出帆	正午出帆	正午出帆	正午出帆
	堀回	堀回	堀回	堀回

[illegible][illegible][illegible][illegible]